

【表紙】

【提出書類】 臨時報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年 1月20日

【会社名】 株式会社アスラポート・ダイニング

【英訳名】 Asrapport Dining Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 檜垣 周作

【本店の所在の場所】 東京都芝五丁目13番16号

【電話番号】 03-6311-8899 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 中村 敏夫

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田一丁目3番8号

【電話番号】 03-6311-8899 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 中村 敏夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【提出理由】

当社は平成27年10月1日開催の取締役会において、特定子会社の異動を伴う子会社取得を行うことを決定いたしましたので、金融商品取引法第24条の5第4項並びに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号及び第8号の2の規定に基づき、本臨時報告書を提出するものであります。

2【報告内容】

(企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号に基づく報告内容)

(1) 当該異動に係る特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

名称	九州乳業株式会社
住所	大分県大分市大字廻栖野3231番地
代表者の氏名	檜垣 周作
資本金	10百万円
事業の内容	牛乳・乳製品・はっ酵乳・デザート等の製造、販売

(2) 当該異動の前後における当社の所有に係る特定子会社の議決権の数及び特定子会社の総株主等の議決権に対する割合

当社の所有に係る議決権の数

異動前	個
-----	---

異動後	1,914,200個
-----	------------

総株主等の議決権に対する割合

異動前	%
-----	---

異動後	95.71%
-----	--------

(3) 当該異動の理由及びその年月日

異動の理由	当社の子会社となる九州乳業株式会社の純資産額が当社の資純資産額の100分の30以上に相当するため、当社の特定子会社に該当することになります。
-------	--

異動年月日	平成27年10月19日
-------	-------------

(企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第8号の2に基づく報告内容)

(1) 取得対象子会社の概要

商号、本店の所在地、代表者の氏名、資本金の額、純資産の額、総資産の額及び事業の内容

商号	九州乳業株式会社
本店の所在地	大分県大分市大字廻栖野3231番地
代表者の氏名	檜垣 周作
資本金の額	10百万円 (平成27年3月31日現在)
純資産の額	325百万円 (平成27年3月31日現在)
総資産の額	3,838百万円 (平成27年3月31日現在)
事業の内容	牛乳・乳製品・はっ酵乳・デザート等の製造、販売

最近2年間に終了した各事業年度の売上高、営業利益、経常利益及び純利益

(単位:百万円)

	平成26年3月期	平成27年3月期
売上高	10,840	11,528
営業利益	43	243
経常利益	66	272
当期純利益	76	238

提出会社との間の資本関係、人的関係及び取引関係

資本関係	該当事項はありません。
人的関係	当社代表取締役檜垣周作は、九州乳業株式会社の代表取締役を兼任しております。
取引関係	当社子会社である株式会社弘乳舎が、九州乳業株式会社に対して原材料を販売しております。

(2) 取得対象子会社に関する子会社取得の目的

当社は、焼肉、居酒屋等の外食フランチャイズを中心に全国で428店舗を展開しておりますが、平成25年度より新たに「食のバリューチェーンを構築する」という目標を掲げて外食から生産事業への進出を果たし、多層的な付加価値を生み出すビジネスモデルの構築に取り組んでおります。また、自社ブランド商品の開発・販売を強化するため「食品生産事業と六次産業化」にも取り組んでおり、食品生産事業を強化してまいりました。

当社グループは、この「食のバリューチェーン」を形成するため、物流部門については、親会社である阪神酒販株式会社(以下、「阪神酒販」という。)グループの傘下にある東洋商事株式会社(以下、「東洋商事」という。)の協力を得ております。

一方、東洋商事の子会社である九州乳業株式会社(以下、「九州乳業」という。)は50年以上の歴史をもつ主力ブランド「みどり牛乳」をはじめ、ヨーグルト、プリン等、様々な乳製品を製造・販売しています。九州乳業は、平成25年4月より阪神酒販グループの東洋商事が主要株主として同社経営に携わり、東洋商事の強みである全国の商流ネットワークを活用し業績改善を図ってまいりました。その結果、現在、九州乳業の生産力はほぼピークに達し、今後の更なる事業拡充のためには追加設備投資が必須となり、そのための財務力や信用力の改善が喫緊の課題となっております。

当社では、上記「食のバリューチェーン構築」、「食品生産事業と六次産業化」といった経営目標・課題に取り組む中で、九州乳業が運営する事業を活用することで、当社が展開する外食チェーンや外部企業に向けての取引拡大が見込めます。また、九州乳業としては、上場企業である当社が親会社となることにより、財務体質並びに信用力の強化が見込めます。これらの理由により、今般、当社から東洋商事に対して、東洋商事が所有する九州乳業の全株式を譲り受けることを提案したところ、賛同をいただきましたので、九州乳業の株式を取得することを決定いたしました。

(3) 取得対象子会社に関する子会社取得の対価の額

九州乳業株式会社の普通株式	1,400百万円
アドバイザリー費用等(概算額)	3百万円

合計（概算額）

1,403百万円

以 上